



生徒たちにも、やさしい口調で話す菊池さん

会場に集まった全員が楽しく過ごしました。

今村さんは、「子どもたちは、障害のあるなしに関係なく、誰でも自然に触れ合うことができるんです。むしろ大人の方がこそ余計な力が入ってしまうようですね」と笑いながら話します。「これからも当分の間は、この活動を続けていきたいですね。でも、本当はこのようなイベントがなくても、障害がある人となない人とが分け隔てなく、一緒に楽しく暮らしている社会になることを望んでいるんです」と、胸の内を明かしてくれました。

地域の皆さんの協力で行われている「あそぶ会」。そんな活動が行われているこのまちには、「心のバリアフリー」が自然と広がっていくことでしょう。

ボランティアの心を広め、温かいまちをつくりたい

「育てよう思いやり」を合言葉に、温かい地域社会をつくることを目標に活動しているのは「ボランティア実行委員会」の皆さん。平成九年に結成されたこの会

は、ボランティア活動を紹介するパネル展示や障害者の手作り品を即売する「ボランティア展」を毎年十二月に開催するほか、ボランティアを養成する講座や手話講習会などを行っています。

「催しの中で行ったアンケートの結果から、ボランティア活動を始めるためには、「きつかけ」が非常に大切であることが分かりました。そのための新しい活動が必要だと感じたんです」と、話してくれたのは、同実行委員会委員長の菊池洋子さん。こうして今年から始まったのが「出前講座」です。小・中学校の総合学習やPTA行事から、町内会や子ども会などの地域活動まで、依頼があればどこにでも出掛けて、ボランティアの心を伝えていきます。依頼主の要望に合わせて、短時間の講演や数回に分けての講義もできますよ。堅苦しいものではなく、気軽な雰囲気



両手の人さし指を折り曲げて「こんにちは」。手話って思っていたより簡単だね



緊張の面持ちでガイドする佐々木崇至（ささきたかし）君（左）と不安を隠せない菅大輔（すがだいすけ）君

「気の交流会形式から始めてもいいんです」と、菊池さんは話します。

七月八日には、北海道教育大学附属札幌中学校で三年生を対象に特別授業を行いました。「ただ話を聞いてもらうだけの授業ではなく、実際に体験してもらい、心に残るものにして」と、菊池さんは考え、授業内容を組み立てました。当日の生徒の反応は上々。時折交える手話に興味を示したり、目

隠しをして視覚障害を体験するアイブラインドに戸惑ったりしながら、熱心に取り組んでいました。生徒たちは、この体験を通して、障害者に対するさまざまな思いを持ったようです。「ボランティア活動は、そんなに難しいことではありません。少し勇気を出して『お困りですか』と声を掛けてみてください。それが、ボランティア活動の始まりです。ぜひ、実践してくださいね」と、菊池さんは授業を締めくくりました。

身近な生活の中でできるボランティア。それは、思いやりと少しの勇気から始まります。そんな気持ち、まちにたくさんあふれるといいですね。

障害者の未来を考える「DPI世界会議札幌大会」とは

「なくそうバリア、ふやそう心のバリアフリー」を大会スローガンとするDPI(障害者国際ナショナル)世界会議札幌大会。10月15日(火)からの4日間、道立総合体育センター(きたえーる)で開催されます。

4年に一度開かれるこの国際会議は、障害者自らが主体的に運営します。日本では初めての開催となる札幌大会には、世界100カ国以上から障害者はもちろん、福祉関係者など約2千人が参加する予定です。「すべての障壁を取り除き、違いと権利を祝おう」を大会テーマに、全体会議や分科会の中で障害者を取り巻くさまざまな問題について幅広く話し合います。

期間中は、日本文化・伝統を紹介するコーナーを設けるなど、多彩な交流事業も予定されています。皆さんも、この会議の開催をきっかけに、共に生きることについて考えてみてはいかがでしょうか。

詳細 DPI世界会議札幌大会事務局

☎632-7666 FAX632-7667